



企業版ふるさと納税プロジェクト

寄附御礼 ■ 感謝状 ■ 公表の承諾を頂いた企業様の広報・ホームページ掲載等

音威子府村まち・ひと・しごと創生推進計画

本村には村立の「北海道おといねっぷ美術工芸高等学校（以降、「おと高）」があり、同校には毎年北海道内外から40名の生徒が入学し、卒業までの3年間で音威子府村民として過ごされます。同校3学年で全校生徒が120名程度、15～18歳の若者が全人口の20%近くを占めています。このような人口構造は、ほかの自治体に見られない特殊性であり、おと高の維持・発展、卒業生の定住・Uターン促進をすすめ、本村の人口問題に対応する取り組みを行っています。

音威子府村の概要



音威子府村は、北海道上川管内の北端に位置し、北東は宗谷管内枝幸町、北は宗谷管内中頓別町、北西は中川町・南は美深町に隣接し東西22.2km、南北18.6km、総面積275.63平方kmを有しています。村の中央を貫流する狭隘な耕地と、総面積の86パーセントを森林が占め、そのほとんどは道有林と北海道大学研究林で形成されています。

東西ともに約50kmでオホーツク海・日本海に達することから海洋性気候に属し、四方山岳の囲まれた狭隘な盆地的地形のため寒暖の差が激しく、12月から3月の平均気温は-6度以下、6月から9月は17度以上となり酷暑時期には30度以上を示す事もありますが、酷暑時期には-30度以下になることもあります。

また、道内でも有数の豪雪地帯で降雪量は12mを超えることもあります。平成10（1998）年11月18日未明から19日にかけて積雪135cmを観測し、11月の積雪量で道内歴代2番目の記録となりました。

村名の由来は、アイヌ語の「オトイネッ (o-toyne-p)」で濁りたる泥川、漂木の堆積する川口、または切れ曲がる川尻を意味しています。

音威子府村とおと高

(正式名称：北海道おといねっぷ美術工芸高等学校)



現在の北海道おといねっぷ美術工芸高等学校は、昭和25（1950）年に名寄農業高等学校音威子府分校として設置され、同28（1953）年に音威子府高等学校へ独立認可された。同30（1955）年に定時制課程として認可されるが、数年後から生徒は激減する。同38（1963）年に工業科目を取り入れるが、少子化と定時制希望者の減少により、その存在が危ぶまれた。同53（1978）年に工芸・インテリア実習を採択、同59（1984）年に全国唯一の全日制工芸科へ切り替えてから徐々に生徒数が増え、平成14年に校名変更を経て現在に至る。



基本目標1 村の振興の要となる高等学校の機能強化

- ◆数値目標：高等学校の入学数 40人
- ◆具体的な施策：おと高振興事業(生徒募集のための中学校訪問)
：美術工芸教育の質と寄宿舎機能を高める環境の充実事業
：美術工芸実習に必要な専門工作機械類の環境整備 他



基本目標2 卒業生の雇用の場創出や多様な人材活躍・企業活躍の推進

- ◆数値目標：卒業生の新規就業者数 5年間で5人
- ◆具体的な施策：新規就農者対策事業：音威子府村農業振興事業
：半工制度(1年の半分を美術・工芸等制作活動、半分を商業や農業等に従事)事業：音威子府村中小企業振興条例の活用 他



基本目標3 おと高生を軸とした人の流れ、卒業生や村外の人々とのつながりを築き、全ての世代が暮らしやすいまちづくりの推進

- ◆数値目標：卒業生の移住者数 5年間で5人ほか
- ◆具体的な施策：卒業生等のUターン・移住者のIターン促進事業
：Eコマース・おと高センター等、美術工芸施設を利用したイベントの促進 他



基本目標4 おと高生参加による個性的で安心して暮らすことのできる魅力あるまちづくり

- ◆数値目標：高校生参加まちづくり事業 年3事業
- ◆具体的な施策：高校生や卒業生のまちづくりへの参加
：防災体制の強化・救急搬送体制の強化
：住民サービスのデジタル化・デジタルを活用した利便性の向上 他

村長より

(音威子府村長：遠藤 貴幸)



本村には、全国トップクラスの美術を学べる「おと高」があり、真剣に学ぶ生徒の眼差しはキラキラしています。「おと高」を卒業し、進学や就職のため、村を離れる生徒が多いですが、数年後に本村に戻られ、その才能を存分に開花していただけるようお手伝いできればと考え、皆さまのご支援をお願いする次第です。